



2000年7月号 通巻第20号

スカウティング茨城



ボイスカウト茨城県連盟
広報専門委員会 編集発行

<http://www.d2.dion.ne.jp/~bs18raki/>

ごあいさつ

理事長 佐野 英樹

この度、前川又光男氏の後を継いで、理事長に就任いたしました。歴代理事長の残された功績を思い、その責務の重大さを痛感しております。微力な私ですが、皆様のご協力をいただき努めていきたいと思います。

来年は茨城県連盟の創立50周年の記念すべき年にあたります。過去をみつめ今後の課題をとらえ、次の50年を展望してこの運動の未来像を描く好機だと思います。

子供を取り巻く環境の変化の中で、スカウト運動に期待をよせる声もたくさん耳にします。社会の求めにも応えながら、「ちかい」と「あきて」を基本とし、社会に貢献できる青少年の育成のため、着実な歩みですすめていくことが大切なことだと思います。

「ひとりでも多くの青少年にスカウティング活動を」を目標に幅広い活動を展開し、指導者相互の連携・協力を支えに、楽しいスカウティングのために努力していきたいと思います。皆様のご支援をお願いいたします。



平成12年度年次総会開催

平成12年5月27日に、茨城県立青少年会館において茨城県連盟平成12年度年次総会が杉原正日本連盟総コミッショナーの参席を得て開催されました。

開催に先駆け、平成11年度のベンチャースカウト富士章の伝達、日本連盟表彰伝達、茨城県連盟表彰が行われました。

総会では、5つの議案が滞り無く審議了承され、新理事長の挨拶で幕を閉じました。

※議事内容等詳しくは各団に配布されている総会資料をごらんください。



【平成12年度県連役員】(敬称略)

連 盟 長 関 正夫

副 連 盟 長 橋本千代寿、川又光男

理 事 長 佐野英樹

副 理 事 長 山田隆士、竹本俊一

地区代表理事 久保田鉄十郎、桧山雄八郎、佐野英樹、

吉永行輝、室井高城、若生悦男、井澤俊雄

学識経験理事 山田隆士、竹本俊一、堀江郁夫、白石陽一

吉田俊仁、北川武久、久保勝男

県コミッショナー 津久井一茂

県副コミッショナー 八木健二、戸舘善敬、柏原公子、吉川勲

名 誉 会 議 員 員

相馬順敬、鈴木 明、益子時男、小林成敏

平井栄一、武田秀夫

監 事

坂本秀雄、小野勝久

事 務 局 長

三浦 勉

組織拡張委員長

片桐 保 国際教育専門委員長 八木雄二

指導者養成委員長

吉田俊仁 環境教育プログラム委員長 大西重信

野営・行事委員長

竹本俊一 50周年記念誌担当 堀江郁夫

進歩委員長

北川武久 スカウトクラブ担当 久保勝男

健康・安全委員長

北岡 隆 宗教プログラム担当 河和田唯彰

財政委員長

白石陽一 50周年記念事業委員長 理事長兼任

広報専門委員長

海老原 学 第14回県キャンポリー準備委員会 同上

基本に戻れ、実践躬行

県指導者養成委員会

みなさん、こんにちは。指導者養成委員会です。指導者養成委員会は、スカウトを直接指導する指導者のみなさんに、研修やセミナー、トレーニング等様々な知識や技能の向上及び獲得の機会や場を提供するとともに、コミッショナーやトレーニングチーム等と協力してどうすれば楽しく効果的な指導教育ができるのか等を研究しています。

さて、指導者養成委員会の今年のテーマは「基本に戻れ、実践躬行」です。これは、社会情勢のめまぐるしい変化の中で多極化している価値観を持つ青少年に対する教育において、学校、家庭そして地域社会それぞれの役割を考えいくときに、このボーイスカウト運動もそれに応じて今まで以上に柔軟に対応していくことが求められています。

その1つにアダルトリソーシス方針の導入があります。これは「青少年の、青少年による、青少年のための運動」であるはずのボーイスカウトが、大人のための大人の運動になっていないかという反省を基に、青少年が主体であること、青少年がこの運動の意志決定にかかわること、青少年に興味あるプログラムが提供されることを確認し、それらが展開できる運動体になるよう、成人がどう在ればいいのか、どこからどのような人材を求める活用できるようにしていくのかを打ち出したものです。その具体的な内容と解説がスカウティング誌の2000年2月号に掲載されています（是非ご一読ください）。

本来スカウティングはスカウトの自発的な行動により起きたものであり、スカウトたちが適任と認めた（自分たちに何か楽しいことをあししてくれるぞ、自分たちを導き高めてくれるぞ・・・といった）成人を隊長として要請したことが、指導者のはじまりです。選任権はスカウトにあった訳です。と言うことは、指導者は、自分が知っていることを単に提供するだけでなく、スカウトから求められたものをどれだけ提供できるか（個人でまたはネットワークで）が問われているのでしょうか。

第2に、スカウティングの4本柱として「人格」「健康」「技能」「奉仕」があるのはご存じだと思います。中でも「人格」については、マニュアルや知識だけで形成されるものではありません。成人指導者とスカウトがいろいろな形で関わって、言い換えれば寝食を共にして、いかにスカウトたちに情熱をもって貢献するかという意識と研究と実践力

と自省、すなわち心と心が通い合ってこそ、はじめてその第一歩が踏み出せるのではないかでしょうか？ これは三島通陽総長が書かれた「ボーイスカウト十話」の「乃木希典」の項を読んでいただけるとなるほどと感じられるでしょう。

さて、この2つの事だけからも、スカウトにとってリーダーとは仲間であり先輩であり、兄貴・姉貴であり、ある時は父・母であるという多くの側面を持っていることがあわたりになるでしょう。単なる教授者ではありません。生き方・在り方そのものを身をもって教え育て、結果としての感動や感激を共に分かち合える…のがリーダーだと思うのです。これが基本だと思うのです。そして、分かち合うためにはスカウトと同じように自分自身がスカウトと共にまたはスカウトの様に「実行」しなくてはならないでしょう。また、より多くの体験をし自分のものとして道を示すことも必要となるでしょう。要するにリーダー自身の自己研鑽です。机上で予備知識を得たりや更なる研究をすることも必要でしょうが、まずは自ら実践することが大切なのではないでしょうか？ そうです佐野常羽氏が言われた「清規三事*1」のひとつ「実践躬行」です。

指導者養成委員会では、定型訓練と呼ばれる「指導者講習会」や「ウッドバッジ研修所」の運営ばかりでなく、これらを「骨」とするならば「血・肉」である定形外訓練（以前は非定形訓練と呼んでいた）に重点を置き、単に「知る」ではなく参加者が「できる」ことに主眼を置いて、各地区、コミッショナー、トレーニングチームの協力で、多くの研修会・研究会等を実施運営しています。

ここでは、文献や資料では得られない、スカウトに直につながる生きた内容の研修が行われています。みんなの隊のスカウトのために、そして自分自身のために、是非ともこれらの定形外訓練に参加してください。

指導者養成委員会では、地区主催の定形外訓練であっても、県内すべての指導者が参加できるよう、県連事務局を通じて各団に通知しています。また、県連のホームページには最新の研修スケジュールが掲載されていますので、こちらもご利用ください。

*1 「清規三事」（しんきさんじ） 実践躬行、精究教理、道心堅固

*2 <http://www.d2.dion.ne.jp/~bs18raki/oshirase.htm>

●今後予定されている定形外訓練

期日	訓練名称	主催地区	開催場所	その他（対象地区等）
08/28	野営法研究会	2地区指養委	未定	全地区 テント設営、炊事等
09/24	デンリーダー研究会	6地区指養委	取手市永山公民館	近隣地区可 組集会の持ち方
10/07	デンリーダー研究会	5地区指養委	未定 近隣地区可	地区内 地区CS隊長G主導
10/7-8	野営法研究会 ビギナー＆ベーシックコース	5地区指養委 &野行委	土浦青少年の家（予定）	全地区 2コース併設
10/29	勉強会	7地区指養委	境スカウト会館	全地区
12/2-3	実技研究会	1地区指養委	未定	全地区
H13/02/04	ソング・ゲーム研究会	5地区指養委	未定	全地区

※ 6月4日までに県指導者養成委員会に通知があったものです。

スケジュール及び更新情報については、隨時県連ホームページに掲載されます。

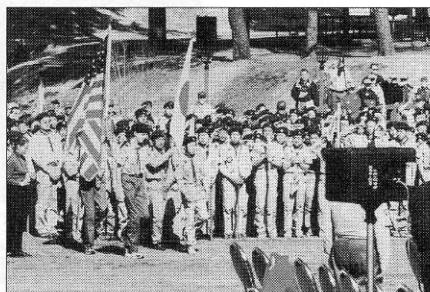
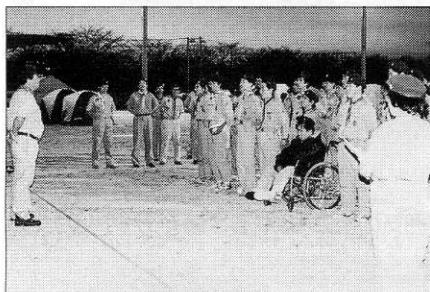
第26回日米フレンドシップパトローリー大会参加報告

平成12年3月24-26日に神奈川県座間市で行われた第26回日米フレンドシップパトローリー大会(参加者総数1200名)に第六地区のスカウト40名と指導者12名が参加しました。

会場は今回始めて米軍座間基地が使用され、野営場は野球場とラグビー場という、自然に恵まれたとは言えない場所でしたが、基地をあげてのサポートにより、快適な野営生活が出来ました。天候にも恵まれ、スカウト技能博や軍用犬訓練体験等のプログラムに参加するほか、交換夕食会にはゲストにアメリカ連盟座間BS隊の指導者2名とスカウト8名を迎え、食後にはゲームや歌を歌う等、和やかな時間を過ごしました。営火では事前の厳しいオーディションを勝ち抜いて、テレタビーズのスタンツを披露し(写真右)、大変な好評を博しました。

尚、来年の第27回日米フレンドシップパトローリー大会には第七地区のスカウト・指導者が参加予定です。

県野営・行事委員会



◆心に残るスカウトのお話 ①

アン・ノウン スカウト物語

1909年の秋のことでした。イギリスの都ロンドンは、この日も一日中濃い霧に包まれていました。

アメリカのイリノイ州シカゴからロンドンに来た出版業のウイリアム・ボイス氏は、市の中心部で、ある事務所を探していましたが、道がわからなくて困り果てていました。そのとき霧の中からひとりの少年が近づいてきました。

「何かお役に立つことがありますか?」
と少年は言いました。事務所がわからなくて困っていることがわかると、少年は先に立って、その事務所までボイス氏を案内しました。

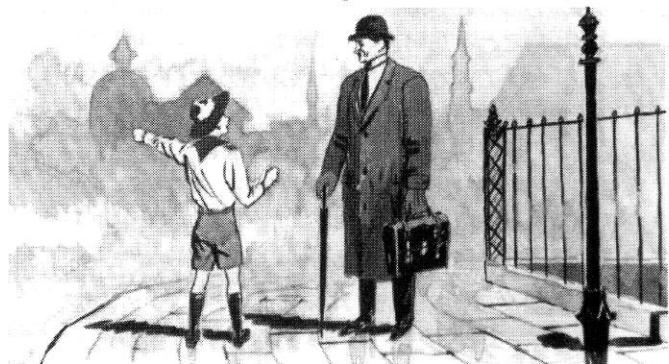
ボイス氏は、アメリカ人の習慣で、少年にチップをあげようと、ポケットに手を入れました。しかし、ボイス氏がチップを取り出す前に、少年は勢いよく右手を挙げて敬礼をしました。

「僕はボーイスカウトです。今日も何か良いことをするつもりでいました。お役に立ててうれしいと思います。スカウトは他の人を助けることで、お礼はもらいません。」
と少年は言いました。少年からボーイスカウトのことを聞いたボイス氏は、用事を済ませてから、少年にボーイスカウトの本部まで案内してもらいました。ボイス氏が少年の名前を聞く前に、少年はもう姿を消していました。

イギリスの本部でボーイスカウトのことを詳しく調べたボイス氏は、アメリカに帰って大統領のタフト氏に話をし、やがて、アメリカでボーイスカウト運動が始められたのです。

その少年はどうなったのでしょうか。その後誰も知りません。しかし誰も知らないこの少年の小さな善行が、アメリカのたくさんの少年に、ボーイスカウトを伝えるもとになったのです。

【月の輪ハンドブックより】



【定形外訓練】

◆3地区コミグループ&5地区指導者養成委員会共催

キャンプファイア研修

平成12年7月1日(土)に県立中央青年の家において、猛暑の中、3地区5地区共催のゲームソング研究会「スカウトソング、キャンプファイアの歌と運営」が実施されました。今回は実に12時間という長丁場の研修のため、研修自体を前半と後半の2つに分け、そのどちらの時間帯からでも参加が可能しました。

前半はスカウト歌集からキャンプファイアで歌える歌を22曲を歌いました。参加者の多くはカブ・ビーバーのリーダーだったので、知らない曲が多かったようですが、曲の雰囲気はよく掴んでくれたと思います。

午後は、まずオリジナルソング集からアクションソングとキャンプファイアでできるゲームを行いました。次にキャンプファイアについての講義となり「キャンプファイアとは」(杉浦)、「出し物と演技」(石山)、「準備と後始末、環境に配慮した營火」(金井)、「キャンプファイアのプログラム企画立案」(中島)の4つのセッションが実施されました。夜に実習するキャンプファイアのテーマが「世界旅行」に決まり、午後の部の参加者の15人は3つの班に分かれて、それまで研修したことを即座に反映して「スタンツ」「ソング」「替え歌」の3つの出し物を決めました。そして、それぞれの出し物の要素(動静・盛り上がり度)を考えながら全体の流れ組み立て、実習のキャンプファイアの計画を作り上げて実習に臨みます。

夕食後、薪組みの実習を行い、いよいよキャンプファイアの実習が始まりました。B-Pに扮した吉田講師が營火長となり、エールマスターに石山講師、ファイヤーキーパーに金井講師、ソングリーダーに杉浦・中島両講師という役割で、参加者はみなスカウトという設定です。離れたところに全員集合し、誘導担当のお話で世界旅行の出発地へと向かいます。その道の両側には国旗が描かれた誘導灯。そして篝火が燃えるギルウェルパークへと到着し、そこから世界旅行に出発しました。エールマスターの身振り信号で各班は自分の出番を知り、さっと登場します。予定よりも早い進行のため、エールマスターからソングリーダーに身振り信号の指示が飛びます。各班ともユーモラスで楽しい出し物で場を盛り上げます。そして、盛り上がったキャンプファイアも美しい輪唱とともに静けさを取り戻し、ヤーンへと移っていきます。

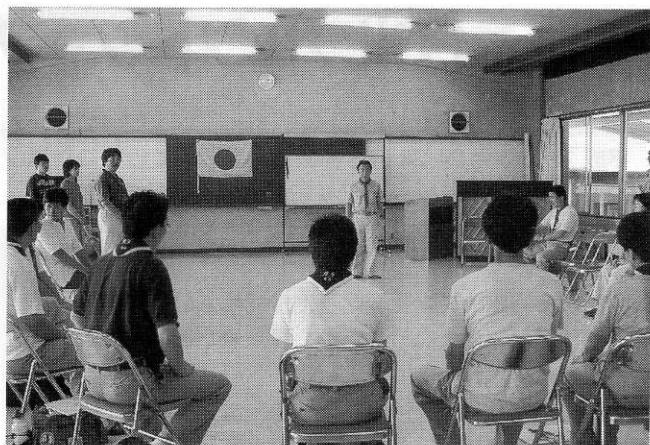
今回のヤーンは、天国にいるB-Pが登場して、その場のみんなにある人物のことを伝えるという形式のものです。吉田講師のちょっとした仮装が、すばらしい効果を生むことを実感したこと思います。

そして、全員で後かづけをして、部屋に戻り「キャンプファイアの評価」と「まとめ」を行い、ヤーンについての話をして、閉会式となりました。

実に12時間。参加者、そしてスタッフ、奉仕のみなさんお疲れさまでした。

●主任講師 中島清行(ALT)

◎講 師 吉田俊仁(LT)、金井 崇(TT)、
杉浦一弘、石山貴子



◆午後の部の開会式、第3地区の佐野委員長のごあいさつ



◆リラックスした雰囲気の中にも、やるき満々の参加者たち。



◆こっちもリラックスして指導する講師たち。



◆B-Pに扮した吉田講師。ヤーンについてのセッションをしているところ。

コミッショナー通信

県副コミッショナー 吉川 勲

国際教育専門委員会

茨城県連盟では、今年から「国際教育専門委員会」が発足しました。昨年までの「RS・VS 特別委員会」の業務を引き継ぎつつ活動の領域を広げ、県内のスカウト運動を支援しようとするものです。「スカウトの手による国内及び世界の国々での社会貢献・国際交流」という項目が今年の県連盟の事業目標にあります。「国内」に注目してください。

国際？

国際なんとかと言うと、遠い世界のできごとのような気がして、身近な興味を持ちにくいかもしれません。今年開催される「アジア太平洋ジャンボリー」にも「世界ローバーマート」にも参加希望者があまりいませんから。

しかし、スカウト運動はそもそも初めから国際貢献・国際交流を目的にしていました。団や地区や県の枠を越え、国境も越え、宗教も人種も越えて仲良くすることが、スカウト運動の基本です。1922年の宣言以来ずっとそうでした。

よき社会人

日頃の原隊活動では技能の習得が中心になっているのが現状だと思います。しかし、何のための技能訓練なのかを時々振り返ってほしいものです。スカウト運動の目的は「よき社会人」の育成ですが、社会は地域社会だけではありません。国際社会も社会なのです。そのための技能訓練ですね。

原隊主義

指導者の口からよく出る言葉に「原隊主義」というのがあります。聞いたことのない人は幸せ者かもしれません。ふつうは、地区や県連や日連などの奉仕や活動参加を拒む時に使われるようです。

隊指導者として直接スカウトの指導に当たりたいから、それ以上の奉仕はご容赦願いたいという気持ちで使われたのでしょう。

忙しい社会人がやっと時間を作ってスカウト運動にかかわるのですから、できるだけスカウトを目の前に見ていたいということだと善意に解釈しましょう。しかし、この言葉は排他的な匂いがします。乱暴に言えば、周囲の社会とかかわらずに、自分勝手に活動したいということになります。

★はみ出しBS情報

①第15回茨城県キャンポリー日程決定

第15回茨城県キャンポリーが来年平成13年8月9日(木)～12日(日)に実施されることが決まった。

②牛久第2団が9月に発団

5地区の牛久市に新たに牛久第2団が発団することが決まり、現在その準備活動を実施中。

秘密結社

指導者が広い交流を避けねば、スカウトも隊の外の世界のことなど考えなくなります。自分たちだけの世界を作り、独善的な活動になるでしょう。

これがスカウト運動の基本とどれほど矛盾するかお分かりでしょう。原隊主義はさながら秘密結社のようになり、よき社会人の育成どころか、怪しげな野外生活者の養成に堕してしまいます。

最近は制服を避けるスカウトや指導者も増えているらしく、世間の目に触れるところでは制服を着用していないこともあります。活動場所の周辺でこそこそ着替えるところを目指します。こんな活動は避けたいですね。まるで悪いことをしているみたいですから。活動を見せましょう。

交流

国際交流は、ですから、まず隣人との交流から始めましょう。すると隣の地区、隣の県、そして隣の国との交流へとつながります。隣人との交流が、国際交流の第一歩ではないでしょうか。

毎年夏になるとスカウトの大会が企画され、多くのスカウトがあちこちで野外生活をしながら交流を深めます。仲良くすることがスカウト運動ですから、これで目的は達成されませんか。

原隊の夏季キャンプができなくとも、大会などで目的は達成されるのです。スカウティングでは生きるために技能習得が必須ですが、技能のために本来の目的が歪められるのでは本末転倒でしょう。

貢献

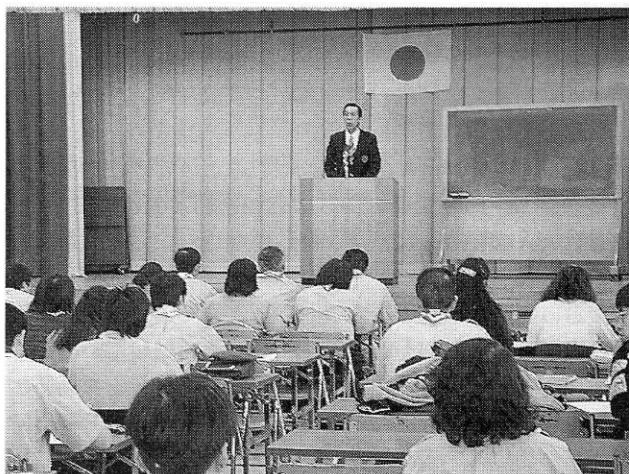
国際貢献というと妙に大きな行事のように感じられるかもしれません。でも「いつも他の人々を助けています」なのです。道端の空き缶拾いは、地雷撲滅運動と同じ行動なのです。おばあさんの荷物を持ってあげることは、難民救済と同根の行為なのです。「ちかい」と「あきて」はあまりに身近すぎるのでしょうか？当たり前のことを当たり前にすることが、国際貢献につながります。「ちかい」と「あきて」の実践。これに尽きます。



③WB実修所情報

今年度のWB実修所は、ビーバー第22期(8/17-22)【日連〆切7/27】、カブ 第123期(10/4-9)【9/13】、ボーイ第145期(10/5-10)【9/14】。参加希望者は原則として日連〆切の1ヶ月前までに県コミに課題研修を地区コミ経由で提出してください。課題研修への取り組みについては地区コミにご相談ください。

東西南北かわら版



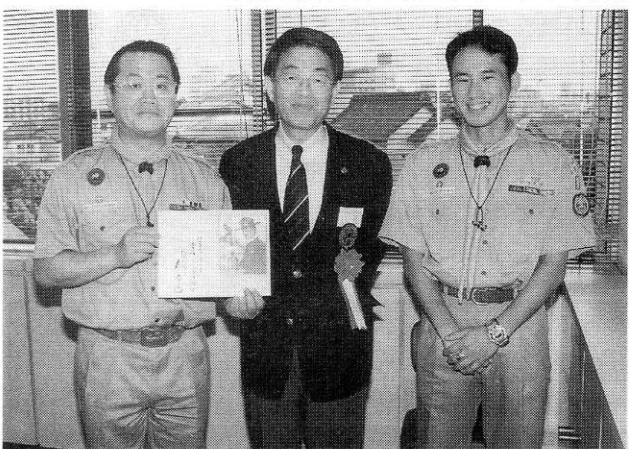
▲1月16日（県連発）↑

指導者のつどいが開催され、95名の指導者が参加しました。山田副理事長の基調講演に続いて、4つの分科会と県コミとの懇談が行われました。



▲3月31日（3地区発）↑

下館3団が、30年以上も継続して取り組んでいる青い羽根共同募金で水難救済会から表彰されました。



▲5月28日（広報委員会発）↑

日連の杉原 正 総コミッショナーが県連総会に参席するために茨城県連盟においてになりました。吉田理事がもつているのは来訪記念にいただいた色紙です。

編集部に送られてきた写真で綴るコーナーです。みなさんの投稿（写真+コメント 80字程度）をお待ちしています。宛先は「茨城県連事務局SC茨城係」宛お願いします。

▼3月5日（茨城ローバース会議発）↓

今回で第3回を迎えたローバーによる国道6号線の清掃奉仕。今年はJR石岡駅～茨城町レストランはにわの里までの歩道の清掃を実施しました。



▼5月14日（5・6地区発）↓

5地区と6地区のローバーと指導者が、霞ヶ浦でカヌー研究会をしました。これはカナディアンカヌーを2艘繋いで安定性の試験をしているところです。



▼6月11日（5地区発）↓

女子スカウトで茨城初の富士章を受章したのは牛久第1団の高橋ゆづさん。5地区地区委員会において富士章が伝達されました。（隊長でありお父さんの高橋隊長と）



▼6月18日(日連発) ↓

平成12年度日米スカウト交歓計画派遣の団長に竜ヶ崎1団の磯崎彦氏、副長に取手1団の種田嗣大氏が任命されました。



▼7月11日(5地区発) ↓

美浦幼稚園からの依頼で「親子お楽しみ会」に竜ヶ崎1、守谷1、牛久2、阿見1のリーダーが出演してきました。



▲7月9日(6地区発) ↑

取手の消防署で救急法講習会があり、多くのスカウトが受講しました。心肺蘇生法などを学んで来ました。

★夏季キャンプの記事募集

このコーナーでは、今年の夏の団・隊の夏季キャンプの写真と記事を募集しています。これぞという写真1枚とキャンプの記事(400字未満)を県連事務局「SC茨城」宛お送りください。写真の返却を希望する場合はその旨を明記してください。スカウティング茨城の次号で特集する予定です。9月20日〆切です。どんどん自隊をピアールしよう!!!

★地区・団・隊の取材は「地区記者」へ

今年から、各地区には「地区記者」が任命されています。地区の行事や団のイベント、隊のすごいプログラム等々を是非取材してもらったり、記事を書いたり写真を撮って地区記者に送ろう!!!!

県内各団・隊のホームページ案内

昨年来、県内の多くの団または隊で、ホームページが開設されています。広報委員会で把握しているだけで、下記の団・隊でホームページを開設しています。是非サイトに訪問してみてください。各団・隊の活動の様子がよく分かります。情報収集に役立たせてください。次回は地区その他のホームページを紹介。また新規開設団はご一報ください。

(50音順)

茨城県連盟	http://www.d2.dion.ne.jp/~bs18raki/
阿見第1団	http://www.asahi-net.or.jp/~xe6k-nkjm/index.html
牛久第1団	http://www1.nisiq.net/~k-nag/
牛久第2団	http://www09.u-page.so-net.ne.jp/za2/todate/
境第1団	http://wwd.dreams.ne.jp/~pd6309/
利根第1団☆	http://www2u.biglobe.ne.jp/~tone1-bs/tone1.htm
取手第1団☆	http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/8500/bs.htm
ひたちなか第1団	http://www.alpha-net.ne.jp/users2/isawa/
藤代第2団	http://www9.freeweb.ne.jp/diary/toozawa/
水海道第1団	http://www.hh.ijj4u.or.jp/~yizuka/toppage.htm
水戸6団	http://homepage1.nifty.com/home-kanbara/boy/index.html
守谷第1団	http://www3.freeweb.ne.jp/misc/moriya1/
結城第一団	http://member.nifty.ne.jp/BSYUUKI1DAN/
竜ヶ崎第2団☆	http://www.komori.net/

☆印は「隊」のホームページです。





WOOD BADGE



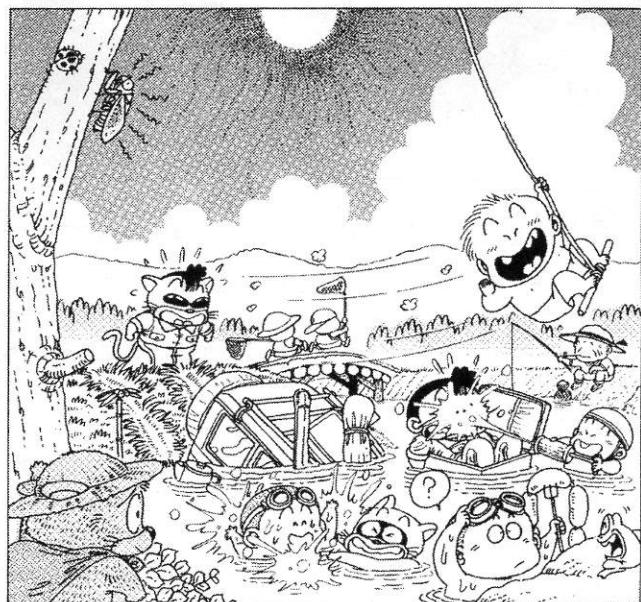
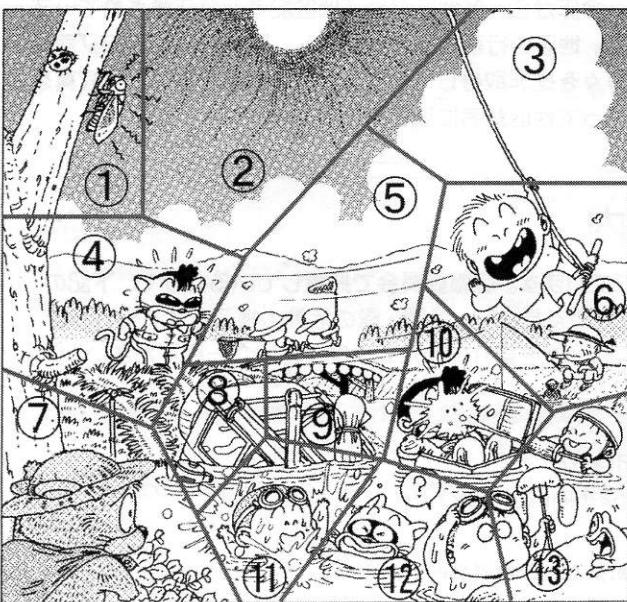
平成12年5月3日～5日に土浦青少年の家において、ウッドバッジ研修所ベンチャースカウト課程茨城第3期（吉田俊仁所長）とカブスカウト課程茨城第28期（戸館善敬所長）が開催され、ベンチャーコースは18名、カブ課程は32名が修了しました。

ビーバースカウト課程とボーイスカウト課程は秋（11月2日～5日）に開催されます。

まだ参加されていない指導者のみなさんは、課題研修（地区コミッショナーにご相談ください）や野営法研究会（P.2に掲載）の受講等、そろそろ参加計画をたててみませんか。



★SC茨城7月号 くいす「まちがいさがし」



カブスカウトのNくんは、右の絵をまねて左の絵をかいてみました。ところがよく見てみると、いくつかまちがつて書いてしまったところがあります。ほんとに小さいまちがいなのでよく見ないとわかりませんが・・・。

さて、それはいくつあるでしょう。まちがいのあるところの番号をすべてを答えてください。

官製はがきに①所属団隊②住所③氏名④電話番号と⑤答えを書いて、下記にお送りください。正解者の中から抽選で5名に賞品をお送りします。（〆切平成12年9月20日）

〒310-0034 水戸市緑町1-1-18 県立青少年会館
ボーイスカウト茨城県連盟事務局 SC7クイズ係

◆編集後記

12年度から広報委員会は広報誌の内容の充実と定期発行を目指して新しいシステムとして、各地区・各種委員会に広報担当者（記者）を選出していただき、定期的に記事をご提供いただくことになりました。各地区・各種委員会の楽しい出来事や、ステキなアイディア、ニュースなどございましたら、どしどし広報担当者（記者）を通じて記事をご提供ください。また、広報担当者のみなさまにはご苦労をかけしますが、よろしくお願ひいたします。

広報委員長